

文芸作品等)やテレビ・ラジオ・講演等の内容を充分理解し、文書又は言葉で正確に伝達でき、討論で自分の意見を正確に述べられます。

二つ目はハングル能力検定試験です。この試験は南北(大韓民国・朝鮮民主主義人民共和国)の、いずれの正書法(綴り)も認めたハングル検定試験ですが、1級・準1級では面接もあります。主催は東京都港区にあるハングル能力検定協会です。級別は1級・準1級・2級・準2級・3級・4級・5級です。

級別レベルですが、1級は高度な内容(一般社会の常識の範囲)のハングルを聞き、話し、読み、書くことができます。常識・経験・知識・判断など積極的に用いて、記述された事実を様々な視点から検証しつつ読み解くことができます。本国で授業が聞けますし、ハングルで討論ができます。準1級は400時間程度の学習レベルですが、つまり高度な内容(一般社会の常識の範囲内)のハングルを聞き、話し、読み、書くことができます。映画やテレビ、ラジオ放送が十分に理解できますし、スピーチ、通訳ができます。2級は200~300時間程度の学習レベルで、日常生活や職業上の用務を果たす上で必要な、一般的なハングルを聞き、話し、読み、書くことができます。電話で会話ができ、新聞、雑誌等を読んでほとんど理解できます。

準2級は、150~180時間程度の学習レベルですが、日常生活に必要な一般的なハングルを聞き、話し、読み、書くことができます。電話で簡単な会話ができ、辞書を引いて新聞、雑誌等を読んである程度理解できます。簡単なメールを読んだり書いたりもできます。

3級は120時間程度の学習レベルで平易なハングルを聞き、話し、読み、書くことができます。ホテルで予約したり郵便局で手紙を出したりもできます。駅などの窓口で用を足すくらいの簡単な会話ができます。基本的な説明文、広

告文などが理解でき、簡単な文章を正しく書くこともできます。

4級は50~60時間程度の学習レベルで、基礎的なハングルを読み、書き、聞き取ることができます。初歩的な語句で簡単な挨拶や紹介ができ、ある程度辞書を使うことができます。基礎的な単語で短い文章を書くことができます。

5級は、20時間程度の学習レベルですが、ハングルを習い始めた初歩の段階です。ハングルのごく短い文を読み、書き、聞き取ることができますし、1から10まで数えることができます。決まり文句としての簡単な挨拶もできます。

三つ目は通訳案内業(ガイド)試験です。これは、外国人観光客のガイドとして活躍するために、都道府県知事が発行する免許で、試験は難しく収入は経験と実力によって差が出てきます。外国人に日本の文化・地理・歴史を紹介するのが主な仕事ですがハングルは英語よりは甘いらしいです。レベルですが、韓国語能力試験4・5級、ハングル検定2級程度の語学力に加え、旅行業に必要な日本についての一般常識です。

以上、三つのお試験を紹介してみました、皆さんはどれに挑戦しますか?

---

## ハングル検定試験を受験して (インタビュー)

短期大学部 2年 戸澤 智美

---

(ハングル検定3級の合格おめでとうございます。以前、ハングル語がとても身近な存在としてあったと聞きましたが、どんな環境だったのか教えてください。)

母親が韓国出身なので、子供の頃からハングル語を耳にしていました。なので、勉強したというよりも、自然に身につけていたという感じでした。初めて話した言葉も、「オンマ(日本語:

ママ)」でした。

(ハングル検定を受けようと思ったキッカケは?)

形に残る資格がほしくて、受験を決めました。  
(試験勉強を進めていく中で、大変だったこと、  
心掛けたことは何ですか?)

市販の参考書を1冊買いました。内容は構文中心で、過去問や例文の記述がなかったので、実際の出題形式に沿った勉強ができなかったことが不安でした。心掛けていたのはリーディングです。勉強の中でハングルの音を文字として見たとき、これまで自分が意識していた文字と違うことを発見しました。例えば、日本語で「すみません」と聞こえた音が、文字でみると「すみません」と書かれている。音から入った私には、こういった結びつきを考えることがほとんどなかったもので、この発見は新鮮でした。文字としてのハングルの学ぶことができ、とても良かったと思います。

(今後の目標は?)

来月(6月)準2級を受験します。音と文字の結びつきを理解するには、まだ時間が必要だけど、レベルアップしていくことが嬉しいので、この課題をしっかりと強化して、合格を目指したいと思います。

(韓国語を学んでいる方に何かメッセージをお願いします。)

今は韓国の音楽やドラマなど、韓国語を身近に触れる機会が多いので、そういった音や映像を活用して楽しみながら勉強したり、韓国語と日本語の成り立ちの違いを理解していく基本が大事です。また、韓国へは比較的行きやすく、勉強した成果をすぐに実践できるので、時々その環境の中に身を置くことも学習意欲を高める秘訣だと思います。

(インタビュアー：豊橋語学教育研究室 加藤雅子)

## 挑戦するぞ!! タイ語検定

国際コミュニケーション学部 加納 寛

名古屋校舎にタイ語が第2外国語として登場して1年チョイ。タイ語履修者も日増しに増えてゴキゲンな今日この頃です。タイ語としては、「将来役に立つ言語ナンバー・ワン」を目指して日々がんばっています。

さて、「将来役に立つ」にも、いろいろな役立ち方がある訳ですが、大学生としてはやはり、将来のお仕事で役に立つ、ということを考えるのではないのでしょうか。そこで今回お勧めするのがコチラ!! 「タイ語検定」です!!

タイ語力を測る検定には、様々な種類があります。タイでは、日本人学校の先生たちが取得を義務付けられている「ポー・ホック」試験などが一般的です。これは、タイ人の小学6年生と同程度のタイ語力があることを証明するための試験です。日本国内では、日タイ言語交流センター主催の「タイ語検定試験」と、日本タイ語検定協会の「実用タイ語検定」とがあります。愛大では、前者の4級以上、後者の3級以上を取得すると、奨励金の対象となります。がんばってね!!

では、日本で受験できる(どちらも名古屋で受験できます!!)2つの検定を見ていきましょう。

### 1、タイ語検定試験

例年、5月と11月に行われます。1級から5級まであり、全ての級で筆記試験とリスニング試験があります。1級と2級では、面接による口頭試問が、1次試験の1か月後くらいにあります。各級の基準は次の通りです(詳しくは<http://nichithai.com/>参照)。

5級：タイ文字の読み書きができること。基